



幼児教育を充実します

認定こども園化の推進（施策 4）

公立幼稚園では、一人ひとりの発達に応じた幼児教育を行うとともに、未就園児の保育活動や子育て相談など安心して子育てできる環境づくりを進めています。

3歳児から5歳児が通園する幼稚園は十分確保できていますが、保育所と認定こども園で提供する保育については、市全体ですべての年齢で不足しています。

注目ポイント

平成27年度から始まる「子ども・子育て支援新制度」に基づき、計画的に質の高い幼児の教育・保育の総合的な提供、地域の子育ての支援の一層の充実、保育の量的拡大・確保を図ります。

公立幼稚園については、不足している保育を提供するため、既存の施設を活用しながら認定こども園化の検討を進めます。



放課後の子どもたちの居場所を充実します

青少年の仲間づくり・居場所づくりの推進（施策 27）

国が平成26年に策定した放課後子ども総合プランでは、放課後児童クラブ(留守家庭児童育成室)と放課後子供教室(太陽の広場)の児童が、共通のプログラムに参加できるよう、2つの事業が連携して実施することをめざしています。

吹田市では、国のプランに先行して、留守家庭児童育成室と太陽の広場をすべての小学校で連携して実施しています。

また、留守家庭児童育成室については対象学年を平成31年度に6年生まで延長する子ども子育て支援事業計画を策定しています。

注目ポイント

太陽の広場については、地域の実情に応じながら、全市的な拡充をめざします。

今後は両事業の連携をさらに強め、すべての児童が放課後を安全で安心して過ごし、多様な体験・活動ができるように取り組みます。



学校全体の教育の質を 高めます

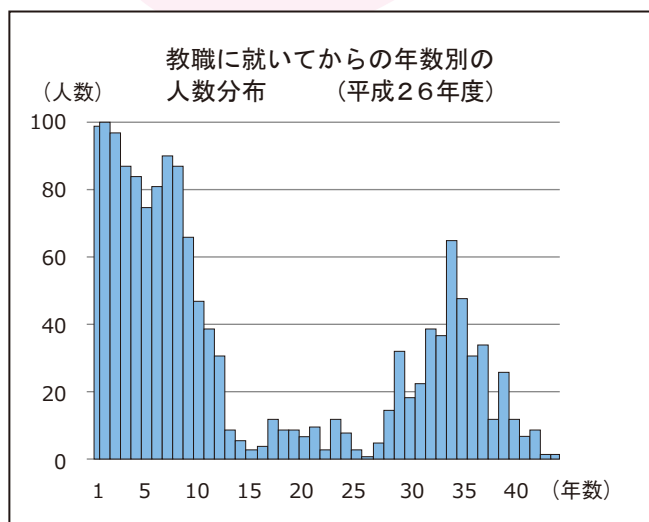
教育資料の提供と
教職員研修の充実（施策 41）

現在、39歳以下の経験年数の少ない教員が、小・中学校全体の約50%を占めています。また、今後数年で現在の管理職を含む多くの教員が定年退職を迎えるため、これまで培ってきた教育を継承し、学校全体の教育の質をどのように高めていくかが課題になっています。

注目ポイント

教員の指導力、授業力を向上させるための研修や今日の課題に応じた研修、教育現場のニーズを反映させた研修などを計画的に実施し、教育の質を高めていきます。

さらに、次の管理職になるミドルリーダーの育成と学校全体の組織力の向上に取り組みます。



中学校ブロックの特色を活かし、 小中一貫教育を推進します

小中一貫教育の推進（施策 5）

平成23年度に開園した千里みらい夢学園では、学力向上や英語教育など、小中一貫教育校としての取組の充実を図り、各中学校ブロックへの積極的な情報発信を行っています。

さらに、すべての中学校ブロックにおいても、ブロックごとの課題に対応する独自の小中一貫教育カリキュラムを編成に取り組み、確かな学力と中学校への円滑な接続をめざしています。

注目ポイント

平成26年度に吹田市が策定した小中一貫教育実施プランⅡに基づき、授業改善に向けた小中合同研究や中学校での小学校6年生の教育活動の推進などを行います。

また、グローバル社会を生きぬくコミュニケーション力の育成をねらいとする小学校1年生からの英語活動を平成29年度までにすべての学校で実施します。

安心・安全で快適な教育 環境を提供します

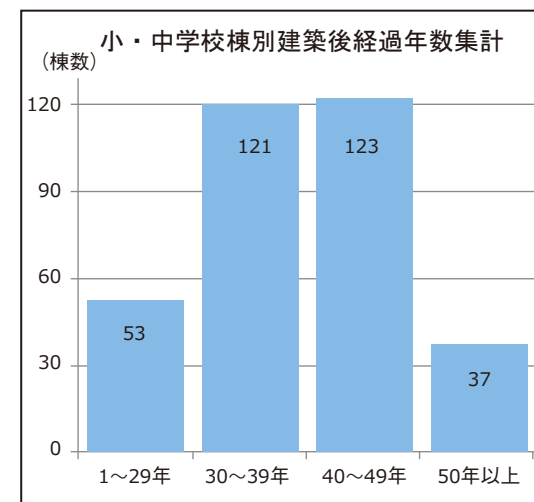
学校・園施設の整備（施策 34）

学校・園施設については耐震補強工事を平成27年度に完了させるよう取組を進めています。

現在、全体の80%を超える校舎や体育館が建設から30年以上経過し、老朽化対策が必要となっています。また、トイレの改善など、より快適な教育環境の実現に向けた取組が必要になっています。

注目ポイント

学校・園施設については、公共施設最適化の考え方を踏まえながら、総合的・計画的な維持保全に取り組むとともに、老朽化対策として大規模改造事業などを行い、より安全で快適な教育環境の整備に取り組みます。



市長と教育委員会の 連携をさらに深めます

総合教育会議の開催（施策 47）

吹田市では平成23年度から市長と教育委員の懇談を定期的に行い、連携を図ってきました。

平成27年度から地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、市長と教育委員会で構成する総合教育会議が設置されます。

注目ポイント

総合教育会議では、市長と教育委員会が教育の大きな方向性や重要な教育課題、緊急の問題などに関して話し合い、相互の連携をさらに図りながら、吹田の教育を進めます。